

I 実践

1 研究主題

思いやりの心をもって、好ましい人間関係を築くことができる児童の育成

(1) 主題設定の理由

本校は複式学級のある小規模校である。小規模特認校制度による転入児童の受け入れが始まり、全校児童は23名である。多くの児童が市内全域から転入し、バス通学をしている。また、小中一貫教育も行われており、コミュニケーション科（英語・ことば）など様々な表現活動の場を設定して取り組んでいる。声に出して発表することが苦手な転入生もいたが、自分の考えを相手に伝えようと意識し取り組み、少しずつ表現できるようになってきている。しかし、在校生も多く、転入児との出会いから新たな人間関係づくりが求められるようになり、課題の1つとなっている。そこで、異学年交流などの様々な体験活動を取り入れることで、お互いを知り、相手を思いやる心を育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 研究の内容

- ア 日立特別支援学校との交流学习（1年生）
- イ 学級活動の話し合いやありがとうカードの実施
- ウ 豊かな体験活動の展開（縦割り班活動など）
- エ 地域の高齢者福祉施設との交流学习（5・6年生）

2 実践内容

(1) 日立特別支援学校との交流学习

今年度は10月に実施した。児童は初めての交流なので、とても楽しみにしていた。「なかよし集会」として、学校紹介や名刺交換やゲームなどを一生懸命に考え準備を進めた。今年度は、「お互いをよりよく知るために積極的に声をかけて、仲良く活動すること」を目標にした。当日は、音楽に合わせてダンスやゲームを楽しんだ。本校児童が進んで声をかけて遊びに誘ったりして、自然に仲良く交流することができた。始めはとても緊張をしていたが、友だちの顔や反応を見ながら、思いやりの心を持って接する姿があった。プレゼント交換になり、楽しかった時間が終わってしまうので、特別支援学校の友だちはもちろん、本校児童も名残惜しそうにしていた。いつまでも「ありがとう」と声をかけていた。1・2年生で交流を行うので、3年生になると交流が途切れてしまうので、3年生以降も児童間のつながりを深めるために、今後も継続して手紙などの交流を続けていきたい。今回は、行事が多く、1回のみの実施であった。より深い心の交流ができるように、継続した実施が必要と感じた。



(2) 学級活動の話し合いやありがとうカードの実施

各学級が目標を掲げてみんなが仲良く生活できるように、学級毎に話し合いを行っている。様々な話し合を行う中で、司会や記録を児童全員が体験して、誰もが学級の一員として意見を述べたり共有したりしている。また、学級や休み時間での他学年とのトラブルや些細な行き違いについて考えることができるようになってきている。

月に何度か「ありがとうカード」の記入を行い、お互いの友だちのよさや自分のよさに気づく、大切な時間となっている。

(3) 豊かな体験活動の展開

ア みんなでランチ（年間3回実施）

全校児童と教師全員で様々なグループに分かれ、話をしながら給食を食べる活動である。健康委員会が中心になって、準備・進行をしている。班ごとに食育クイズを行うことで連帯感が

でている。小規模特認校制度による転入児には、他の児童に質問をしたり話を聞いたりすること、関係を深める効果も期待した。また、普段なかなか話せない先生方との食事、児童はとても楽しみにしている。事後は、イラスト入りのカードに感想を書き、写真と共に掲示板に掲示している。

今年度は小・中学校合同給食も2回実施した。リンゴに関する合同授業や体育祭・文化祭など、交流学习を円滑に進める良い交流となった。

イ 異学年との交流（縦割り班活動）

本校は、縦割り班による清掃活動や田植えや稲刈り等を行っている。年度当初に、学年や兄弟、その他人間関係を考慮して教師側が4つの班に分けている。清掃では、場所をローテーションしながら取り組み、昼休みが終わると、高学年の児童は低学年の児童を教室に迎えに行ったり、終わった後は一緒に連れていったりする姿もよく見かける。また、上級生が、優しく声をかけながら、やり方を教えて清掃に取り組んでいる様子がとてもほほえましい。

ウ あいさつ運動や奉仕活動・感謝の手紙の作成

通学班でのあいさつ運動や落ち葉拾い・学年花壇の整備を全校で取り組んだ。バス通学児はあいさつ運動に参加できないので、バスの運転手さんや補助員さんへ感謝の手紙を作成し、お世話になっている方々に、感謝の気持ちを行動で表わすことができた。

（4）地域の高齢者福祉施設との交流学习（5・6年生）

5・6年生の総合的な学習の時間は、「中里の福祉を考え、自分たちにできることから始めてみよう」というテーマのもと、地域の高齢者福祉施設「山水苑」の交流をしている。高齢者に対する思いやりや共に生きようとする心の育成がねらいである。高齢者への接し方を事前に調べたり友達と話し合ったりして理解を深めたことで、自ら進んで高齢者にかかわり主体的に活動することができた。1回目のお年寄りとの交流では、相手の立場に立って細かな心配りをしなければならぬことがよく分かった。2回目の車椅子や食事介助模擬体験では、事前に食事メニューの写真をしながら「どのようにお手伝いをすればよいのか」学級で話し合った。食事の場面をイメージしながら「声のかけ方」「食べ物の大きさと量」「食べ物の運び方」などを考えて、友だちとの模擬体験も実施した。この活動を通して、一人一人が高齢者の方々を大切に思い、相手の立場に立って一生懸命に考えたり、戸惑いながらも進んで接したりする姿が見られ、心の変容を感じた。

3 成果

- ・人権集会や人権コーナーの活用により、友達のよいところの理解を深めて他尊意識を育てたり、将来の夢や頑張った自分へのメッセージを書くことで自尊感情も高めたりすることができた。今後もこうした取り組みをさらに充実させていきたい。
- ・小規模特認校制度による転入児が、早く本校に慣れて友達と仲良く生活できるようにするためにも、縦割り班活動や全校での活動は大変効果的であった。

II 今後の課題

人間関係づくりが苦手な児童も多く、行事等楽しい場面があると自分中心の考え方や行動をしてしまう児童が見られる。各教科や道徳の時間など学校教育全体を通して、人権に関する学習をより充実させ、児童一人一人の人権意識を高めるための取り組みを、計画的継続的に実践していきたい。

III 人権コーナーの設置の様子

児童同士の「ありがとうカード」を顔写真と共に掲示した。全校児童の「人権メッセージ」も掲示した。特別支援学校との交流会や隔年毎に取り組んでいる高齢者福祉施設での交流の写真などを掲示し、児童に啓蒙を図っている。各教室にも人権コーナーを設置して、自尊感情や他尊意識を高めていけるように努めている。



人権メッセージ



ありがとうのきもちをつたえよう



お年寄りとの交流



なかよしポスター